

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

〒272-0823 市川市東菅野2-17-1 TEL 047-323-4171-5

http://www.showa-gkn.ed.jp/js FAX 047-326-5310

昭和学院 広報

第14号

2013.12.24(火)

The sky is the limit ～我らの限りない青春～



今年度の昭和学院中・高文化祭は内部公開日の9月28日(土)と一般公開日の29日(日)の二日間にわたって開催された。当日は台風の接近が心配されたが両日とも晴天のなかおよそ四千人の来校者を招いて大いに盛り上がった。

今年の文化祭は「The sky is the limit. ～我らの限りない青春～」のテーマの下、全校が一丸となり校舎棟・体育館棟・記念ホール・記念館など学校全体を盛り上げていた。

このテーマは生徒会を中心に話し合いを重ね決めたもので、直訳すると「空の限界だ」ということになるが、ご覧のように空は無限に広がっており、すなわち「生徒一人一人は無限の可能性を持っている。」ということになるそうです。

今年度の文化祭では文化部と同好会・課外活動部を合わせて20部、中学校・高校の参加クラスが37クラスの合計57団体が参加して開催された。

文化部では普段の研究や活動の成果を発表したり、練習の成果を発表していた。なかでも美術部では文化祭用にと綿密な設計のもとに造られた



▲ 生徒ギャラリーでの書道部展示

巨大壁画（『春』ポッティチェリの作品）を1階のエントランスホールに展示したり、バトン部やダンス同好会は練習の成果をメインアリーナで華やかに発表していたり、吹奏楽部も全国大会出場を果たすなか見事な演奏を披露していた。

中学校では3教室を使用し世界遺産や世界の遊び、都市伝説などのテーマのもと教室を有効に活用し多くの来校者で賑わっていた。また、高校1年生はお化け屋敷や映画、迷路、演劇、参加型イベントなど12クラスそれぞれの個性あるアトラクションで例年より多くの入場者で盛り上がりを見せ、教室に入りきれないほどの人で溢れている様子が印象的であった。

高校2年生は恒例の模擬店・緑日・休憩室を開店し、駄菓子やからあげ井、タピオカ、チョコバナナ、焼きそば、アイスなど多彩なメニューでこれも大好評であった。また、生徒会企画も恒例となっている男装女装コンテストやのど自慢大会などで多くの参加者のもと感動あり、笑いありで大変盛り上がった文化祭であった。



▲ メインアリーナで発表されたダンス同好会

海外教育研修



▲バンクーバー、スタンレーパークにて

等を行い、渡航に関する準備作業、フェアウェルパーティーの準備、練習など、生徒たちは終業式当日まで忙しい思いをしながら一生懸命取り組んでいた。そして、7月21日に慌ただしく成田を出発し、約9時間のフライト後、すぐにカナダ・バンクーバー郊外でのホームステイが始まった。3週間を通して大きな病気やケガ、事故がなかったこと、雄大な大自然の中でゆったりした時を過ごせたこと、異なる文化や習慣、価値観を実感できたこと、会話に少しずつ慣れたことなど、有意義な経験をたくさん積めたことが何よりの報告である。ただ、A班、B班の生徒全員が何の不安もなく順風満帆に研修期間を終えたわけではない。初対面の他人の家庭で生活を共にす

5月11日に内部生、外部生の初会合を開き、そこから本格的に第30回海外教育研修の準備がスタートした。英会話の練習や人前で自分の考えを

ることや発音が聞き取れない、単語、英文が出てこない、また食事の違いや生活習慣への戸惑い、孤独感など、多かれ少なかれ様々な困難を生徒全員が経験していた。その間、現地のコーディネーターや先生方、同世代のバディや各ファミリーにも助けられ、少しずつコミュニケーションを図る術を工夫し、乗り越え、徐々に良い関係を築いて順応していく様子は感動的であった。3週間という短い研修であったが、生徒達は自らの将来において大切な何かを掴んだのではないだろうか。私個人としても、これからの若い世代が国際化の波の中で何を学び、身につけていかなければならないのか、「語学力」だけではない「広い視野」や「人間力」などについて考えさせられること多くあった。この研修で生徒達が学んだことは、自分自身のためだけではなく、様々な場面でこれからの学校生活に生かし、広めていってほしいと思っている。



▲ビクトリア・インナーハーバー

合唱コンクール



▲2H「明日へ」

クラスも素晴らしい歌唱を披露した。朝や放課後に練習をしてきたが、メロディを取るためのパート練習、声の出し方調和のさせ方、感情をどのように込めるか、指揮者の工夫、伴奏者の出す音の強弱など、さまざまな苦勞を積み上げてきた。練習を重ねるうちに、その苦勞は徐々に楽しさや喜びに変化していき、本番では満足感と達成感を味わうことができたようである。歌い終わったあとの生徒たちの紅潮した頬と穏やかな笑みがその証としてとれた。行事を経験していくごとに、確実に成長していく生徒たちである。結果は右の通りである。

11月8日(金)、午前中はメインアリーナで高校の部、午後は伊藤記念ホールで中学の部の合唱コンクールが開催された。繊細なハーモニーや歌詞に合わせた力強さなど、どのク

中学	優勝	3の1	高校	優勝	2H
	2位	2の3		2位	2C
	3位	3の3		3位	2A
	奨励賞	1の2		奨励賞	2G 1F 1G 1A



▲1の1『ハナミズキ』

朝の読書・文化講演会



▲静かな雰囲気「朝の読書」

11月11日(月)から2週間、秋の読書週間行事として、「全校一斉朝の読書」が実施された。1日の始まりを静かな気持ちでスタートさせることができ、日頃忙しく読書が身近にない生徒にも良い機

会となっている。図書館を利用する生徒から、「読書量が増えた」「朝から本が読める時間はうれしい」などの声が多く届いている。

11月26日に「家族が語る画家・山下清」という演題で講演会を開催した。講師は、山下清画伯の甥・山下浩氏。絵の紹介・創作エピソードはもちろん、家族ならではの、しられざる人物像にせまるお話を伺い、新たな気持ちで作品を鑑賞できる良いきっかけとなった。



▲山下 浩氏の講演の様子

中2 職場体験



▲ 車体整備の様子を見学



▲ レストランでの調理実習を体験

キャリア教育の一環として、今年も中学2年生の職場体験が11月21日(木)、22日(金)に行われた。昨年同様2学期の実施となり、全員が参加した。

昨年のしおりに準拠する形で、1年生では、社会人となった本校の卒業生からの職業に関する話を聞き、各種職業調べを行った。また、2年生の1学期には各クラスキャリア委員を決め、「生徒主体の職場体験学習」を目標とした計画を立て、キャリア委員の打合せを重ねながら、しおりを作成するなど、生徒の委員会の充実を図るとともに興味関心のある職業について図書館を利用して調べ学習を行った。

この2日間の職場体験学習では、生徒は真剣なまなざしで仕事に取り組み、楽しくもあり充実した2日間とすることが出来た。また、学校では学ぶことのない社会の厳しさや働くことの大変さを学ぶことが出来た。

職場体験学習の終わった現在も引き続き、キャリア委員を中心に、報告集や壁新聞作成の準備が進められている。事業所で生き生きと働く大人の姿や、働くことの大変さ、喜びがどのように表現されるか、見守っていききたい。



▲ 保育園で子供達と一緒に

吹奏楽部 全国大会出場

吹奏楽部の本年度成績は、第19回東関東吹奏楽コンクールで念願の金賞を受賞し、第19回管楽合奏コンテスト全国大会出場を果たし、優秀賞を受賞致しました。初めての全国大会へ向けは「怯むことなく、気張ることなく、全国大会のステージを楽しもう!」と言う思いと、「これまでご指導下さった先生方を始め、支えて下さった方々への感謝の気持ちを込めて演奏をしよう!」と言う思いで、ステージに立ちました。全国大会のステージは部員が思っている以上に大きなステージであり、緊張した部員、楽しめた部員と様々でした。結果は「優秀賞」頂きましたが、来年度へ新たな目標を持てるステージとなりました。

また、本年度の個人は、高等学校2年渡部七海(2L)が2年連続日本クラシック音楽コンクール全国大会への出場が決まりました。個人の全国大会は12月12日(木)に、かつしかシンフォニーヒルズで行われます。昨年よりも上位入賞できるよう最後まで頑張りたいと思います。「団体としては、初めての全国大会でした。緊張もしましたが、全国のステージに立てる喜びを感じることが出来ました。来年度も後輩たちに頑張りたいと思います。」

(部長:菅原綾音・3G)

「昨年度に続き、個人での全国大会に出場が決まりました。沢山の方々に感謝の気持ちを忘れずに、上位入賞を目指し、頑張りたいと思います。応援宜しくお願い致します。」

(サクソフォン:渡部七海・2L)



▲ 第19回東関東吹奏楽コンクールにて

芸術鑑賞会



▲ 「元 部長でずって?」

11月18日(月)の午後と、19日(火)の午前・午後に、伊藤記念ホールで芸術鑑賞会が行われました。タイトルが「THE WIND OF GOD」、直訳すると『カミカゼ(特攻隊)』ということで、かつての大日本帝国、精神主義社会の再来かという懸念もありましたが、しかし、現代っ子である漫才師が放り込まれたタイムスリップした中でも、確執、葛藤、ペース、笑いが程よく織り込まれ、見る人を感動せしめたと思われます。特に、零戦のなかで最期を迎える田代(アニキ)、袋(キンタ)の演技は実に美事でした。

SHOWA GAKUIN

奨学会 ●●● 文化教養部主催 第1回文化講演会 ●●●



熱演される尾木氏

11月30日(土)午前11時から本校メインアリーナで、奨学会文化教養部主催の文化講演会が開催された。講師は、教育評論家法政大学教職課程センター長 教授 尾木直樹氏で、「グローバル化時代の子育て・教育論」という演目で講演された。テレビ、雑誌もおなじみの尾木ママとして知名度が高いので、会場確保のため事前出欠調査を実施したほどである。

当日は800名を超える聴衆を迎え、尾木氏は会場後方から客席の間を抜けて壇上に上がるというサプライズ入場で講演が始まった。まず聴衆の気持ちを和ませるように、独特の語り口で普段の尾木氏の仕事ぶりや、交友関係など笑いを誘いながら話は進んだ。本題に入ると、『まず学力とは何か?』テストで高得点をとることが良いことと考えられ、日本の高度経済成長を支えてきたことは紛れもない事実であるが、現代においてはもっとグローバルな世界を見て発想の転換を図らなければ、これからの国際社会を生き抜くことはできない。そして、学力とは発想力・論理力・思考力を統合した洞察力のことである。また、言語能力とは考える力である。人は考え



大歓迎を受けて入場

る時、必ず言葉を使う。つまり言葉の教育が大切であり、言葉の教育がしっかりしていれば、他の教科もぐんぐん伸び人格も形成される。洞察力を更新しているのは、発想力であり論理力である。言語力が劣っていると、読解力も劣ってくる。これは致命的で、学力も伸びない。言語力を起因とするコミュニケーション能力が大切なのは、世界中の常識であり、国際社会でコミュニケーション能力と言ったら、英語力である。以前から諸外国では、英語力を重視する教育を推進してきた。これからの社会は、知識が基盤となった成熟した社会が必要である。』また、子育て論については独自の見解を述べられ、『子育てと教育に手遅れはない。小・中と義務課程の学力差が大きすぎて、得点や偏差値を競い合わせて、親や先生が満足するのではなく、一人ひとりがどうなのかを、厳しく問わなければならない。そして、子どもを応援するべきである。そうすれば、子どもは目標に向かって頑張る。クラスで一番、二番は関係ない。自分はどうなのか。スポーツの世界も勉強の世界も同じである。逆境になれば、それが力になって伸びるのが子どもである。それが生きる力である。子どもと向き合う時、普通のことをすごいと思える父母になってほしい。今後の親子関係をどう構築するか。まず、子どもに元気をさせてほしい。その子どもの元気をさせる言葉は、「どうしたの?」である。決して上から目線の声掛けではなく、子どもと同じ目線で子どもの本音が吐露できるような雰囲気作りをしてほしい。そして、共感してあげる。すると不思議なことに、子どもは元気が出てくる。これは世間一般の人間関係にも通じていることである。是非今日から実践して下さい。』と、熱く語られた。会場の聴衆者は皆、尾木氏の話に関心入り感銘を受けたようだ。今後の親子関係の潤滑油になってくれればと思う。



花束と記念品の贈呈

千葉県私学振興大会

千葉県私学振興大会参加

10月12日(土)午後2時より、幕張メッセ国際会議場において、千葉県私学振興大会が開催された。当日は、本校奨学会役員をはじめ県内私立学校の父母、教職員が多数参加し盛大な会となった。会に先立ち、本校吹奏楽部が会場の雰囲気を盛り上げるかのように、素晴らしい演奏を披露した。開会の辞、主催者代表挨拶、保護者代表意見、千葉県知事森田健作が来賓挨拶、そして最後に大会決議案を採択し閉会となった。また、今年度は新たな試みとして、平成25年度全国高校総体、国民体育大会の優勝者、準優勝選手の紹介があった。



- 1、次期「千葉県教育振興基本計画」では、私公の協調・共存を踏まえた教育立県を目指すこと。
- 2、私立・公立間の学費格差を是正して、「保護者の経済的負担」を軽減すること。
- 3、全国平均額を超える経常費助成を堅持して、「私学経営の健全化」に努めること。
- 4、すべての私立学校が募集定員を確保できるよう、私立学校と公立学校の適正な配置を実現すること。

山本理事長 叙勲の栄に浴す



▲山本理事長御夫妻

平成25年の秋の叙勲において、本学院山本徹理事長が、瑞宝重光章を受章されました。今回の受章は、昭和41年東京大学を卒業後、農林省(現在の農林水産省)に入省され、平成11年林野庁長官として退官されるまで33年の多年にわたる国及び公共に対する多大な功勞によるものです。

11月3日に叙勲の発表があり、11月6日に、理事長は、奥様ご同伴で皇居に参内され、「松風の間」において、内閣総理

大臣より勲記・勲章の伝達を受けられ、引き続き「豊明殿」において天皇陛下に拝謁され、お言葉を賜られました。本学院では、平成16年5月から理事・評議員として、平成19年4月からは理事長に就任され、長年の行政での経験と広いネットワークを活かし、教育と私学経営の向上に精力的に取り組まれております。叙勲に当たって理事長は、「このたびの叙勲は、多くの方々のお力添えの賜と感謝しております。今後とも、この栄誉に恥じることのないように、仕事に邁進して参ります。特に、昭和学院の園児、児童、生徒、学生の皆さんが将来の日本を立派に背負っていただけるよう教育の充実に全力を傾けて取り組んでまいります。」と話されています。

SHOWA GAKUIN

インターハイ 2013未来をつなぐ北部総体「吹きわたれ若人の風 北部九州へ」

今年のインターハイは、大分県佐賀県等で7月28日から8月20日まで行われた。本校からは76名が選手として参加した。結果は、バスケットボール部女子が準優勝、新体操部が団体3位、水泳部女子が7位入賞、ハンドボール部女子がベスト8、ソフトテニス部女子が個人4回戦、体操競技部が予選敗退、ハンドボール部男子は1回戦敗退だった。今年の結果を見ると、昨年より善戦した部が多い。昨年の3年生から受け取った情熱のバトンをしっかりと後輩に渡すことができた。来年は先輩から受け取った魂を胸に、より躍進することだろう。



▲準優勝バスケットボール部女子

ハンドボール部男子は1回戦敗退だった。今年の結果を見ると、昨年より善戦した部が多い。昨年の3年生から受け取った情熱のバトンをしっかりと後輩に渡すことができた。来年は先輩から受け取った魂を胸に、より躍進することだろう。

【Voice】 高校バスケットボール部女子 監督 鈴木 親光

今年のインターハイは強豪校の明星学園・岐阜女子・聖カタリナと対戦し、苦しみながら決勝戦まで駒を進めることができた。そして、桜花学園と対戦が始まった。昨年同様に前半戦は厳しい戦いとなった。選手は気迫のこもったプレイで必死に後半戦を戦い抜き、一時は逆転することもあったが、一歩及ばずに敗れてしまった。この反省を生かし、ウィンターカップでは再び桜花学園と対戦できるよう頑張りたい。



キャプテン田口のプレー

全国中学 平成25年度全国中学校総合体育大会



▲全中出場の水泳部

顧問の鈴木親光先生、高校バスケットボール部の中村美羽さん(1C)と、11月23日から30日まで行われるFIBA ASIA U-16女子バスケットボール選手権大会に出場した。

8月に東海各県で全国中学校総合体育大会が行われた。本校の結果は、新体操部が準優勝、水泳部女子が総合5位、400mリレー3位、400mメドレーリレー3位、ソフトテニス部がベスト16であった。なお、中学バスケットボール部の赤穂ひまわりさん(3の4)が、高校バスケットボール部



▲メインアリーナで行われた壮行式

【Voice】 中学ソフトテニス部 監督 高原 良江

真夏の太陽が肌に突き刺さるような暑さの中で、愛知全中は行われました。今年は女子個人戦のみの出場となりました。「全中優勝」と笑顔と感謝の気持ちを忘れず、自分たちの最高のプレーをすることを目標に大会に挑みました。2チーム共にベスト16と全力を尽くしました。ありがとうございました。

第68回 国民体育大会 (スポーツ祭東京2013) 他

9月28日から10月14日まで「第68回国民体育大会」が東京で行われ、本校から千葉県代表として、バスケットボール部女子、新体操部、ハンドボール部女子、体操競技部、



▲本校選手主体の新体操競技チーム

水泳部、ソフトテニス部の選手が出場した。バスケットボール部は準優勝、新体操部は3位入賞、ソフトテニス部は4位をそれぞれ果たした。また、日下部知恵先生がバスケットボール成年女子の部に出場し、第5位であった。

10月21日から11月2日にマレーシアでアジアユースパラ水泳競技大会が開催された。水泳部の森下友紀さん(2C)が出場し、400m自由形1位、100m平泳ぎ2位と活躍した。

高校新体操部 全日本新体操選手権出場 高校バスケットボール部女子 全国大会出場



全日本選手権での新体操部

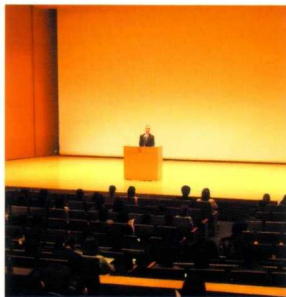
○11月23日、24日、国立代々木競技場第一体育館で、「全日本新体操選手権大会」が開催された。わが昭和学院チームも選抜され出場した。結果は種目別(クラブ10)3位、総合5位であった。○高校バスケットボール部女子が12月23日から29日まで、東京体育館で行われるウィンターカップ2013に出場する。

キャプテン：田口明佳莉さん(3D)「チャレンジ精神を忘れず、顧問の先生や仲間を信じて、一戦一戦全力で戦います。今までやってきたことをすべて出し切って頑張りますので、応援よろしくお願いたします。」

SHOWA GAKUIN

中高等学校説明会

学校説明会は9月21日の中学校説明会に始まり、12月まで中学・高校それぞれ5回ずつ学校説明会を実施した。各会ともに来校者は前回を上回り、本校への関心の高さがうかがえる。施設見学におおぜいの方々に参加され、親子で見学する姿が見られた。また、入試相談室も満席となり熱心に相談する受験生の姿が印象的だった。



▲ 伊藤記念ホールでの説明会

中学校 第1回推薦入試



12月1日(日)受験生を応援するような快晴の中、中学校推薦入試が本校で実施された。あどけない顔の受験生が、緊張した様子で国語と算数の2科または社会・理科を含めた4科に2分程度の面接を加えてチャレンジした。

翌日午前10時からの合格発表では、すでにホームページ上の発表で結果を知っている受験生も、校内掲示板に掲載された自分の受験番号を自分の目で確認し、感激の面持ちで合格通知書を受け取っていた。

平成26年度 入試要項

中学校	第2回(一般入試)	第3回(一般入試)	第4回(一般入試)
募集人数	(男女)30名	(男女)20名	(男女)10名
窓口出願期日	平成26年1月10日(金)~1月17日(金)	平成26年1月17日(金)~1月24日(金)	平成26年1月28日(火)~2月6日(木)
入試日時	1月20日(月)午前8時30分	1月25日(土)午前8時30分	2月7日(金)午前8時30分
入試科目	①4科 国語・算数 各50分 社会・理科 各30分 ②個人面接(受験生のみ 2分程度)	①4科 国語・算数 各50分 社会・理科 各30分 ②個人面接(受験生のみ 2分程度)	①2科 国語・算数 各50分 ②個人面接(受験生のみ 2分程度)
合格発表	1月21日(火) 午前10時	1月26日(日) 午前10時	2月8日(土)午前10時
入学手続	1月21日(火)・22日(水) 23日(木)・24日(金)	1月27日(月)・28日(火) 29日(水)・30日(木)	2月10日(月)・12日(水) 13日(木)

高等学校	前期選抜試験					後期選抜試験		
募集人数	(男女)156名					(男女)20名		
窓口出願期日	平成26年1月6日(月)~1月11日(土)					平成26年1月27日(月)~1月31日(金)		
志望	第1志望			併願		第1志望	併願	
入試	A推薦		C推薦	B推薦		特進(特待生)入試	一般入試	
特進(特待生)チャレンジ	なし	有り	なし	なし	有り	有り	なし	
入試日時	1月17日(金)午前9時	特進(特待生)入試に同じ	1月17日(金)午前9時	1月17日(金)又は1月18日(土)両日とも午前9時	特進(特待生)入試に同じ	1月18日(土)午前9時	2月5日(水) 午前9時	
入試科目	面接(個人)	特進(特待生)入試に同じ	①一般常識試験(40分) ②面接(個人)	①「英・数」又は「英・国」1科目(40分) 英語リスニングテストなし ②面接(個人)	特進(特待生)入試に同じ	①「英・数・国」1科目(50分) 英語リスニングテストあり ②面接(個人)	①「英・数」又は「英・国」1科目(40分) 英語リスニングテストなし ②面接(個人)	①「英・数・国」1科目(50分) 英語リスニングテストあり ②面接(個人)
合格発表	1月18日(土)午前10時	特進(特待生)入試に同じ	1月18日(土)午前10時	1月18日(土)又は1月19日(日)両日とも午前10時	特進(特待生)入試に同じ	1月19日(日)午前10時	2月6日(木)午前10時	
入学手続	平成26年1月20日(月)~1月25日(土)					平成26年2月6日(木)~2月10日(月)		

※試験について詳しくは要項をご覧ください。